

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：32623

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770192

研究課題名(和文) 学習者データに基づく文法記述の試み 韓国語母語話者を対象に

研究課題名(英文) A trial study of Japanese grammar description based upon JSL learners data : The case of Korean Japanese learners

研究代表者

植松 容子 (UEMATSU, YOKO)

昭和女子大学・人間文化学部・講師

研究者番号：30621073

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、学習者の母語の感覚に合った文法記述について、韓国語母語話者における「ようになる」を例に考察した。その結果、韓国語母語話者は「ようになる」を過剰使用しており、その背景には韓国語における「-ge doeda」(「ようになる」よりも使用できる範囲が広い)の影響があることが分かった。一方、比較対象として中国語母語話者における「ようになる」を調査した結果、使用が少なく、「ようになる」の代わりに「始める」等の別の表現を使用していた。その背景には、中国語には「ようになる」に相当する特別の形式がないことがある。これらの事例から、文法記述は学習者の母語の感覚に合うものにするべきであることを主張した。

研究成果の概要(英文)：This study discusses how the vital points of description (Shirakawa2002) are different depending on the learner's first language, based on an analysis of Advanced JSL learner writing and speaking data. Korean speakers are more likely to overuse 'yoo-ni-naru', because Korean has a sentence pattern 'ge-doeda', similar to 'yoo-ni-naru'. Accordingly, we need to show examples of when 'ge-doeda' can not be translated into 'yoo-ni-naru'. On the other hand, Chinese speakers are more likely to underuse 'yoo-ni-naru' because Chinese does not have a grammatical structure corresponding to 'yoo-ni-naru'. Therefore, in order to prevent the underuse of 'yoo-ni-naru', it is necessary to explain that 'change' cannot be expressed just by using adverbs such as 'dan-dan'. And we need to teach them the difference between 'yoo-ni-naru', 'hajimeru', and 'te-iru'.

研究分野：日本語教育における文法教育

キーワード：韓国語母語話者 中国語母語話者 「ようになる」 対照分析 誤用分析 非用 母語の感覚

## 1. 研究開始当初の背景

2000 年以降、日本語記述文法と日本語教育との乖離が問題視されるようになり、日本語教育文法の議論が盛んになってきている。日本語教育文法の研究は、(1)母語話者の使用傾向の記述と、(2)学習者の感覚に合う記述(特定の母語を持つ学習者が「なるほど」と納得できるようなもの)の両者がある。前者はコーパスの普及とともに研究も進展してきているものの、後者はまだ本格的には行われていない。そこで、本研究では韓国語母語話者に焦点を当て、学習者の「勘どころ(白川 2002)」「学習者の感覚に合い、学習者が「なるほど」と合点できるような、使用に結び付く文法知識)を押さえた文法記述を例に、学習者の感覚に合う文法記述の方法について考えることにした。

## 2. 研究の目的

### (1)本研究の目的

本研究の目的は、韓国語母語話者の「勘どころ」に合う文法記述を行うための方法論を検討することである。韓国語と日本語は文法的に近く、習得が容易であると言われているが、似ているがゆえに誤用が起こることもある。本研究では韓国語母語話者の「ようになる」の不自然な使用例に端を発し、韓国語における *ge doeda* との比較も織り交ぜながら、韓国語母語話者の誤用を未然に防ぐための「ようになる」の記述はどのようにあるべきかを探る。

### (2)研究期間内にどこまで明らかにするのか

研究計画においては、次の 2 点を明らかにすることを目標として掲げた。

「ようになる」を韓国語母語話者の「勘どころ」に合うように記述する

「ようになる」以外の項目を取り上げて調査・記述を行い、「勘どころ」に合う記述をするための方法論を検証する

### (3)研究の特色とその意義

本研究の特徴は次の 2 点である。

学習者の感覚に合う文法記述が提供できる：学習者は、一般化された文法説明でも理解できないことはないが、特定の学習者が間違いやすいものがあったり、理解しにくいものがあったりする。学習者データを中心に、その原因を探った上で文法記述をすることにより、特定の母語話者の誤用・非用を未然に防ぐ分かりやすい説明を提供できる

特定の母語話者を対象とした文法記述の方法論を示すことができる：このタイプの研究は多くないため、その方法論を振り返ることにより、記述文法研究の推進に寄与することができる。

## 3. 研究の方法

### (1)「ようになる」の調査

...学習者データにおける「ようになる」の使

用状況、韓国語との対照、教科書における扱われ方、日本語母語話者や日本語を学習している韓国語母語話者を対象とした調査を行う

### (2)「ようになる」の記述

...(1)の成果にもとづき、韓国語母語話者の勘どころを押さえた「ようになる」の記述を行う。

### (3)記述すべき新項目の発見

...韓国語母語話者における「ようになる」以外の隠れた困難点を発見する

### (4)新項目の調査

...新項目の学習者データにおける使用状況、韓国語との対照、教科書における扱われ方などを調査

### (5)新項目の文法記述

...新項目も(2)と同様に韓国語母語話者の勘どころを押さえた記述を行う

### (6)方法論のまとめ

...(1)-(5)をもとに、特定の母語話者を対象とした「勘どころ」を押さえた文法記述の方法について振り返る

## 4. 研究成果

本研究の成果は、大きく 4 つに分けて説明することができる。1 点目は韓国語母語話者の書き言葉コーパス(YNU 書き言葉コーパス)における使用状況を明らかにしたこと、2 点目は中国語母語話者の書き言葉コーパス(同上)における使用状況を明らかにしたこと、3 点目は中国語母語話者における「ようになる」非用の背景を、対照研究や翻訳課題といった母語の影響という観点から明らかにしたこと、4 点目はこれまでの研究成果の総括として、韓国語母語話者と中国語母語話者における「ようになる」を例に、学習者の「勘どころ」を押さえた記述をする必要があることを示したことである。以下では、この 4 点について詳述する。

### (1)韓国語話者の「ようになる」使用状況

(研究成果：図書)

学習者の母語による「ようになる」使用状況の違いを見るために、金澤裕之編(2014)「YNU 書き言葉コーパス」を使用した。本コーパスは、日本人大学生 30 名、韓国語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名にそれぞれ 12 種類の同一のタスクを課すことによって得た 1080 編の作文を、コーパスの形にまとめたものである。作文を書く条件や分量がほぼ統一されており、母語による比較が容易であることからこのデータを使用した。

まず、本データにおける韓国語母語話者の「ようになる」を含む動詞変化構文(「ことにする/ことになる/ようにする/ようになる」)の使用状況を日本語母語話者と比較してみたところ、特に「ことになる」の使用が日本語母語話者の 4 倍以上になることが分かった。「ようになる」については使用数はほぼ同数であったが、使用している文脈には

違いが見られた。「ようになる」が適切な文脈に「ことになる」を使っている誤用や、「ようになる」を使う必要がないところにも使っている誤用が見られた。

#### (2)中国語話者の「ようになる」使用状況 (研究成果：学会発表)

(1)で明らかにした韓国語母語話者の使用状況が韓国語母語話者に特徴的なものなのかを示すためには、別の言語を母語とする日本語学習者と比較する必要がある。そこで、同じ「YNU 書き言葉コーパス」における中国語母語話者の動詞変化構文の使用状況を調査した。その結果、日本語母語話者よりも使用数が少なく、特に「ようになる」は日本語母語話者が41例、中国語母語話者が25例と約半数であり、「ようになる」を使用していないことがうかがえた。

そこで、日本語母語話者の多くが「ようになる」を用いて表していた文脈を中国語母語話者はどのように表しているかを観察したところ、「～ている」や「～し始める」といったアスペクト表現や、語彙的に代用している傾向が見られた。

##### \*日本語母語話者の例

2人は年に一度の7月7日、七夕の日を楽しみに仕事にも精を出すようになりました。  
(YNU コーパス、Task12,J004)

##### \*中国語母語話者の例

二人は錯誤を認識して、各自に一生懸命仕事をしている。  
(YNU コーパス、Task12,C050)

#### (3)中国語話者の「ようになる」非用の背景 (研究成果：学会発表、論文)

(2)の成果により、中国語母語話者には「ようになる」の非用が見られ、「ようになる」のかわりに別の表現(例「～ている」)を使用していることが明らかになった。そこで、中国で使用されている教科書に「ようになる」がどう説明されているか(どう翻訳されているか)の分析と、中国語母語話者を対象とした翻訳課題を実施して、中国語の影響について考察を行った。

まず、中国語における「ようになる(なった)」の表し方を調査した結果、中国語では「～了」を用いて変化の発生として表されることが多いことが分かった。また、翻訳課題を実施したところ、例文のタイプによって「ようになる」に翻訳されやすいものとそうでないものがあることが明らかになった。

これらの結果を(2)で明らかにした書き言葉における使用状況と照らし合わせて考察すると、中国語母語話者にとって「ようになる」は分かりやすいようで分かりにくい表現であるため、より丁寧に類義表現の違い(「～た」と「～ようになる」、「～ている」と「～ようになる」)を記述する必要があることが示唆された。

#### (4)学習者の「勘どころ」を押さえた記述 (研究成果：論文)

(1)-(3)の研究により、韓国語母語話者は「ようになる」を過剰使用しており、中国語母語話者は「ようになる」をあまり使用していないということが明らかになった。これはつまり、一つの文法項目(ここでは「ようになる」)でも学習者の母語によって、記述に盛り込むべき情報が異なることが示唆される。そこで、これまでの研究をもとにして、さらに日本語学習者の話し言葉データ(「日本語学習者会話データベース」国立国語研究所)を加え、具体的な使用状況を示した上で、学習者の母語による「勘どころ」の違いを具体的に示した。

韓国語母語話者は「辞書形+ようになる」の使用数も誤用数も多い。誤用は、【動作動詞に「ようになる」を付加して1回性の出来事を表した誤用】と【進展的な事態を表す動詞句に「ようになる」を付加した誤用】の2パターンが認められた。この背景には、韓国語の「-ge doeda」の振る舞いが関与していると考えられる。したがって、韓国語母語話者を対象とした「ようになる」の記述には、韓国語の「-ge doeda」だと言えそうな例をあげ、日本語においては「ようになる」が使えないことを示すことが必要である。

中国語母語話者は「ようになる」をあまり使用していない。そこで、「ようになる」のかわりに何を使用しているかを調べた結果、「～ている」「始める」といったアスペクトに相当する表現、および「だんだん」といった副詞を使用していることが観察された。中国語は、日本語の「ようになる」に相当する専用の形式を持たないため、どんな時に「ようになる」を使用する必要があるのか分かりにくい。したがって、「ようになる」と「始める」を類似表現として記述することや、「だんだん」といった副詞を付加するだけでは漸次的な変化は表せず、文末に変化を表す表現が必須となることを示すなどの工夫が必要になる。

##### <引用文献>

金澤裕之編(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房

##### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

植松容子、韓国語母語話者・中国語母語話者の「勘どころ」を押さえた記述とは「スルようになる」を例に、日本語/日本語教育研究、査読有、第8号、2017年(予定)

植松容子、「勘どころ」を押さえた文法記述に対する反応調査 韓国語母語話者を対象とした「ようになる」を例に、横浜国大 国語研究、査読有、第35号、2017年、109-123

植松容子、中国語母語話者は「ようになる」と何を類義表現と捉えるか 対照研究と誤用観察から分かること、学苑、査読有、第

910号、2016年、27-36

〔学会発表〕(計3件)

植松容子、「～た」と「～ようになった」について、第1回実在の誤用に基づく類義表現研究会、2016年9月10日、大阪日本語教育センター(大阪府大阪市)

植松容子、中国語母語話者は「よくなる」と何を類義表現として捉えるか 中国語母語話者を対象とした「よくなる」の記述に向けて、第35回中国語話者のための日本語教育研究会、2016年3月4日、名古屋大学(愛知県名古屋市)

植松容子、中国語話者における動詞変化構文の使用状況 母語の感覚に配慮した文法記述のために、平成27年度日本語教育学会春季大会、2015年5月31日、武蔵野大学有明キャンパス(東京都江東区)

〔図書〕(計1件)

植松容子、韓国語母語話者における動詞変化構文の使用状況 母語の感覚に合う記述のために、金澤裕之編(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』、ひつじ書房、2014年、329-351

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

植松 容子 (UEMATSU Yoko)

昭和女子大学・人間文化学部専任講師

研究者番号：30621073